

母国思い 支援の豆腐

パラグアイの日系農家、大豆100ト寄贈

南米パラグアイの日系人と岐阜県の食糧会社が、東日本大震災の被災者に100万丁の豆腐を贈る活動をしている。原料の大豆は同国の主要輸出品。「心はひとつ」という母国への思いをパッケージに刷り、受け入れ先の自治体や避難所を募っている。 〓名古屋・社会面掲載

岐阜の会社仲立ち 100万丁被災地に

名古屋港区船見町の中央倉庫には、30センチ紙袋に詰められた大豆がうすたかく積まれている。岐阜県美濃加茂市の食糧輸入会社「ギアリンクス」(中田智洋社長)が、パラグアイ・イグアス市の日系農業協同組合から100ト寄贈された。大豆1トで1万丁の豆腐ができる。

パラグアイは南米の中央部にあり、面積は日本の1.1倍。パラグアイ日本大使館によると、約3800人の日本人移住者と約3

「みちのくワイド」各地から

「みちのくワイド」各地からでは、本紙地域面などに掲載された記事を紹介します。

2000人の日系2世、3世がいる。大豆と牛肉が輸出の大半を占めており、大豆生産を定着させたのは日系人だったという。日本にとっては、昨年のサッカーW杯決勝トーナメントで、PK戦の末に惜敗した相手でもある。

ギアリンクスは2000年、将来の食糧不足に備えるために岐阜県が後押しして設立。8年前からパラグアイの大豆を輸入している。震災が起きた3月11日、中田社長は南米にいた。パラグアイの日系人もテレビで震災被害を見ており、「何ができる?」と申し出てくれたという。

パラグアイの1人当たり国内総生産(GDP)は日本の約15分の1。それでも日系農家が大豆を100ト贈ることになった。さらに100万丁の豆腐を製造するには4千万円かかるところ、1千万円が日系の枠を超え同国民から寄せられた。残る3千万円は、ギアリンクスが日本国内で協賛金を募っている。

東京農大名誉教授で食文化研究者の小泉武夫さん(67)も「大豆食品はたんぱく質が豊富で、被災者が食べれば元気になれる」と賛同し、盛岡市の豆腐メーカー「平川食品」を紹介した。このほか岐阜、青森、京都



のメーカーも参加を表明。1社あたり10万丁、計10社に作ってもらう予定で、特に東北地方の豆腐メーカーに参加を呼びかけている。4月13日から豆腐の製造を始め、100万丁に達するまで続ける。表のラベルに書かれた言葉は「心はひとつ」パラグアイ国民は日本を応援します」。第1陣のトラックは3500丁を積み、14、16日に宮城県気仙沼市や松島町、岩手県釜石市を回った。大きな釜で湯豆腐を作った配ると、多くの避難者が「こんな速くの国から贈り物が来るとは思わなかった」と喜んでくれたという。

イグアス日本人会長で、大豆農家の福井一朗さん(46)は岩手県出身で、3歳の時に移住した。「暮らす場所は地球の反対側ですが、同じ日本人として、一粒一粒の大豆に復興の祈りを込めました」とメッセージを寄せた。

中田社長は「日系人の望郷と被災者支援の思いが国全体に広がっていることに、深く感動している。同国の大豆のおいしさもぜひ知ってほしい」と話している。問い合わせはギアリンクス(0573-66-5111、サラタコスモ内)。(山吉健太郎)

みちのく
ワイド
各地から

心はひとつ
Corazones Hermanados
パラグアイ産大豆は日本を応援します。
被災地支援 長期保存豆腐

110426
4 960426 201138

パラグアイ産 非遺伝子組み換え
VARIETY :
SIZE :
HARVEST YEAR :
PRODUCER : COO :
DISTRIBUTOR : (株)キョフ

①パラグアイからの支援の豆腐のパッケージデザイン=ギアリンクス提供
②被災地に贈る豆腐づくりに使われるパラグアイ産の大豆=5日、名古屋港区の中央倉庫、福留庸友撮影